

2024年度 東洋大学 IR ニュースレター Vol.2 (通算第15号)

大学の志望理由・身につけたい力・将来の進路 —2024年度新入生アンケート調査結果分析—



東洋大学
学長・IR室長 矢口悦子

2024年度の新入生アンケートの結果をご紹介します。今号では、特に新入生の「将来の進路志向」に着目した分析結果をご紹介します。「民間企業」「公務員」「教師、弁護士などの専門職」「進学」など、学生たちはさまざまな将来像を抱きながら入学してきます。これらの進路志向ごとに回答を見ていくと、それぞれ特徴が浮き彫りになります。志望理由では、学問分野への興味や知名度などは共通して選択される傾向にありますが、例えば、専門職を目指す学生が希望する資格の取得に重きを置くのはいかにも分かりやすい特徴です。大学院進学を希望する学生たちは、難易度が自分にあっていることが志望理由の上位に入り、一方で、専門職や大学院進学の希望者はキャンパスの立地・アクセスを志望理由とはしないなど、特徴的な傾向を示します。また、身につけたい力においては、どの進路志向においてもコミュニケーションスキルの獲得が共通して重視される一方で、大学院進学では語学力、公務員では論理的思考力、専門職ではチームワーク・リーダーシップが、選択されていることが特徴的です。これらの回答傾向は大学選びの段階で、希望する将来像により、進学先を選ぶポイントが異なっていることを示唆しています。もちろん、学問分野、必要とする資格などの性質によっても変わってくるでしょうから、さらなる分析が必要となりますが、多様な受験生のニーズと本学とのマッチングのひとつの手がかりとなる可能性があります。また、大学教育においても、希望進路に応じた教育、学習指導に繋がる知見となります。こうしたデータを参考としながら、学生たちの描く多彩な将来像に寄り添う教育活動のより一層の充実を図ってまいりたいと思います。

2024年度新入生アンケート調査概要

対象: 2024年度4月入学全学部全学科の新1年生

実施期間: 2024年4月15日(月)～2024年5月10日(金)

回答方法: ToyoNet-ACE (Web アンケート)

各年度の回答者数/回答率(2022～2024年度)

年度	対象者数(人)	回答者数(人)	回答率(%)
2024	7,896	4,355	55.2
2023	7,614	4,137	54.3
2022	7,403	4,064	54.9

分析の目的

「大学の志望理由」「身につけたい力」「将来の進路」について、今年度と過去2年度の新入生の回答を比較しながら、変化の傾向を把握します。また、「将来の進路」の志向の差異によって、それぞれどのような特徴が見られるのかについて分析します。今後の大学から高校生への情報発信や新入生向けの入学前教育、大学の教育、学生の進路指導のあり方に示唆を提供します。

分析担当

IR室 教授 劉文君

1.3 年間の比較

① 大学の志望理由

図1 大学の志望理由 (% 2024年度高い順)

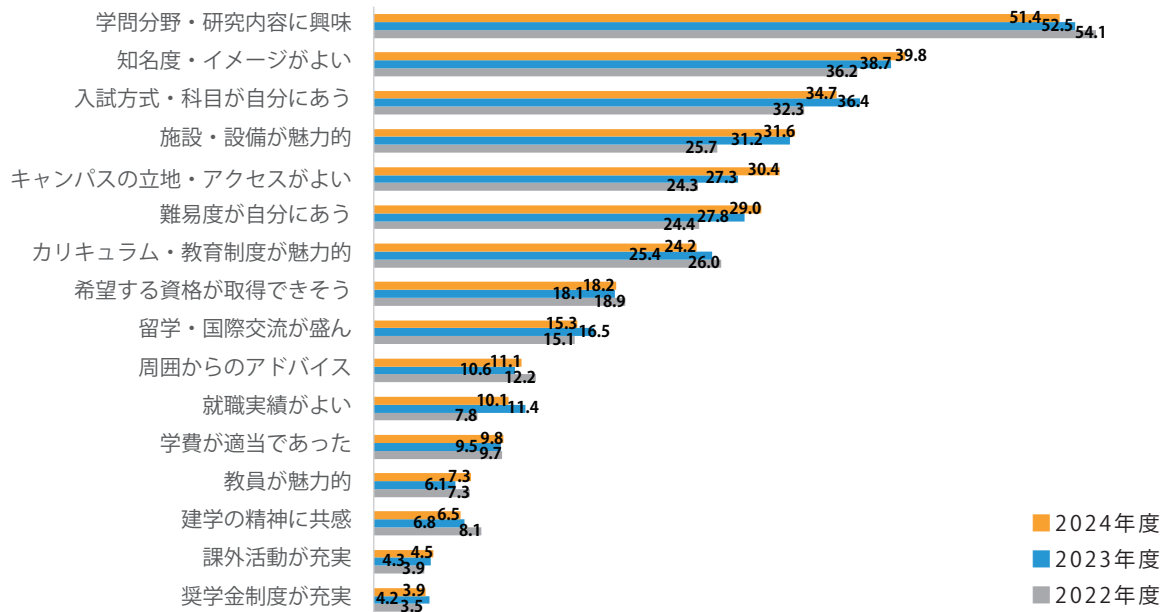
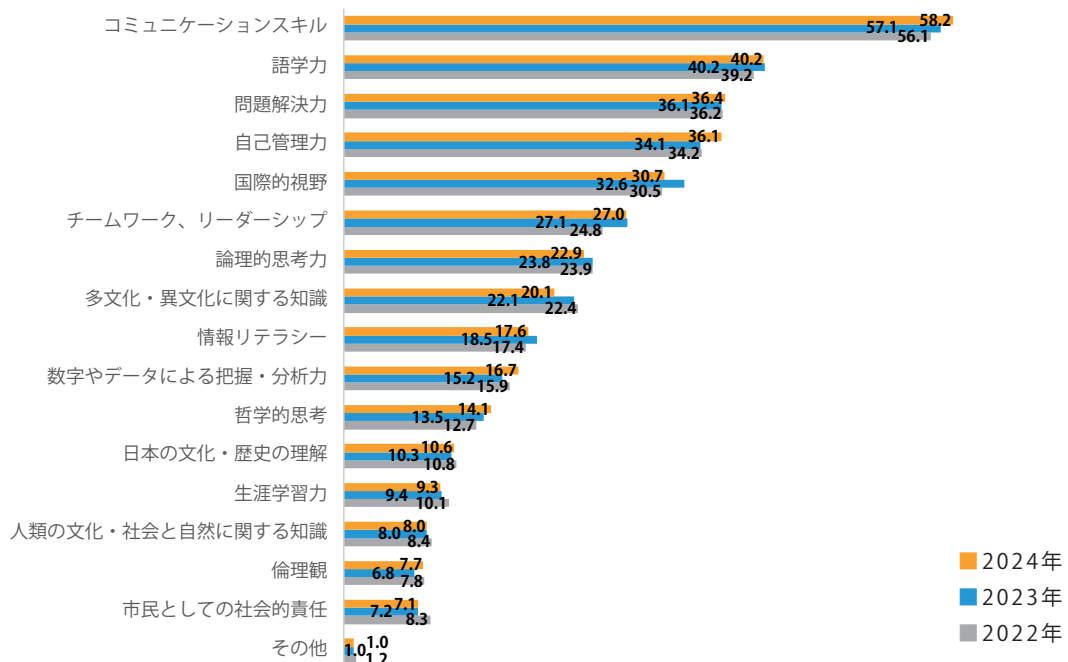


図1に示すように、「学問分野・内容に興味」「知名度・イメージがよい」「入試方法・科目が自分にあう」「施設・設備が魅力的」「キャンパス立地」「難易度が自分にあう」は上位5項目となっている。過年度と比べ、全体のパターンには大きな変化がない。選択率が2割を越える項目の中で、「知名度・イメージがよい」「施設・設備が魅力的」「キャンパス立地」「難易度が自分にあう」などの項目が微増であるが、「学問分野・研究内容に興味」「カリキュラム・教育制度が魅力的」などが微減である。また、就職に関連する項目「希望する資格が取得できそう」「就職実績がよい」での選択率はそれぞれ2割弱、1割前後である。

② 身につけたい力

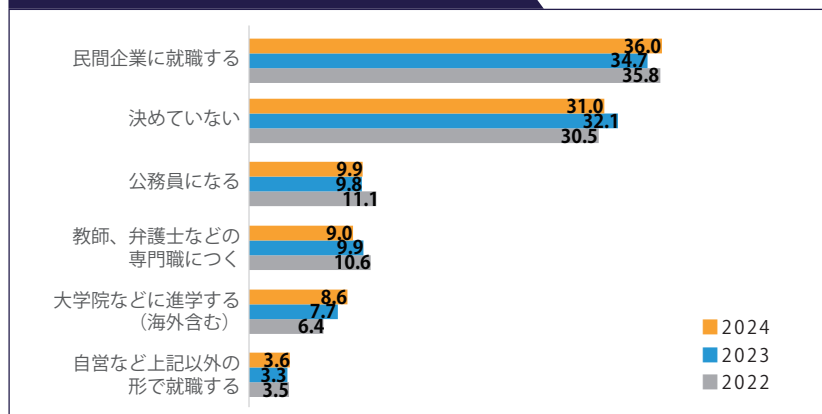
設問「自分の将来のために、4年間でどのような力を身につけたいですか（優先順位の高いものから3つまで選択）」に対して、「コミュニケーションスキル」「語学力」「問題解決力」「自己管理能力」「国際的な視野」は、この3年間ともに上位5項目となっている（図2）。その中でも上位4項目での選択率は前年度より微増である。また、「数字やデータによる把握・分析力」「哲学的思考」などの項目での選択率も微増している。

図2 身につけたい力 (% 2024年度高い順)



③ 将来の進路志向

図3 将来の進路志向（% 2024年度高い順）



今年度の結果は過年度と同じく、「民間企業に就職する」（36.0%）の割合が最も高い。「決めていない」（31.0%）は2位で、両者を合わせて67.0%を占めている。「公務員になる」「教師、弁護士などの専門職につく」の選択率は各1割未満で、後者は減少傾向が見られる。「大学院などに進学する（海外含む）」は8.6%、増加傾向である。「自営など上記以外の形で就職する」は3.6%である。

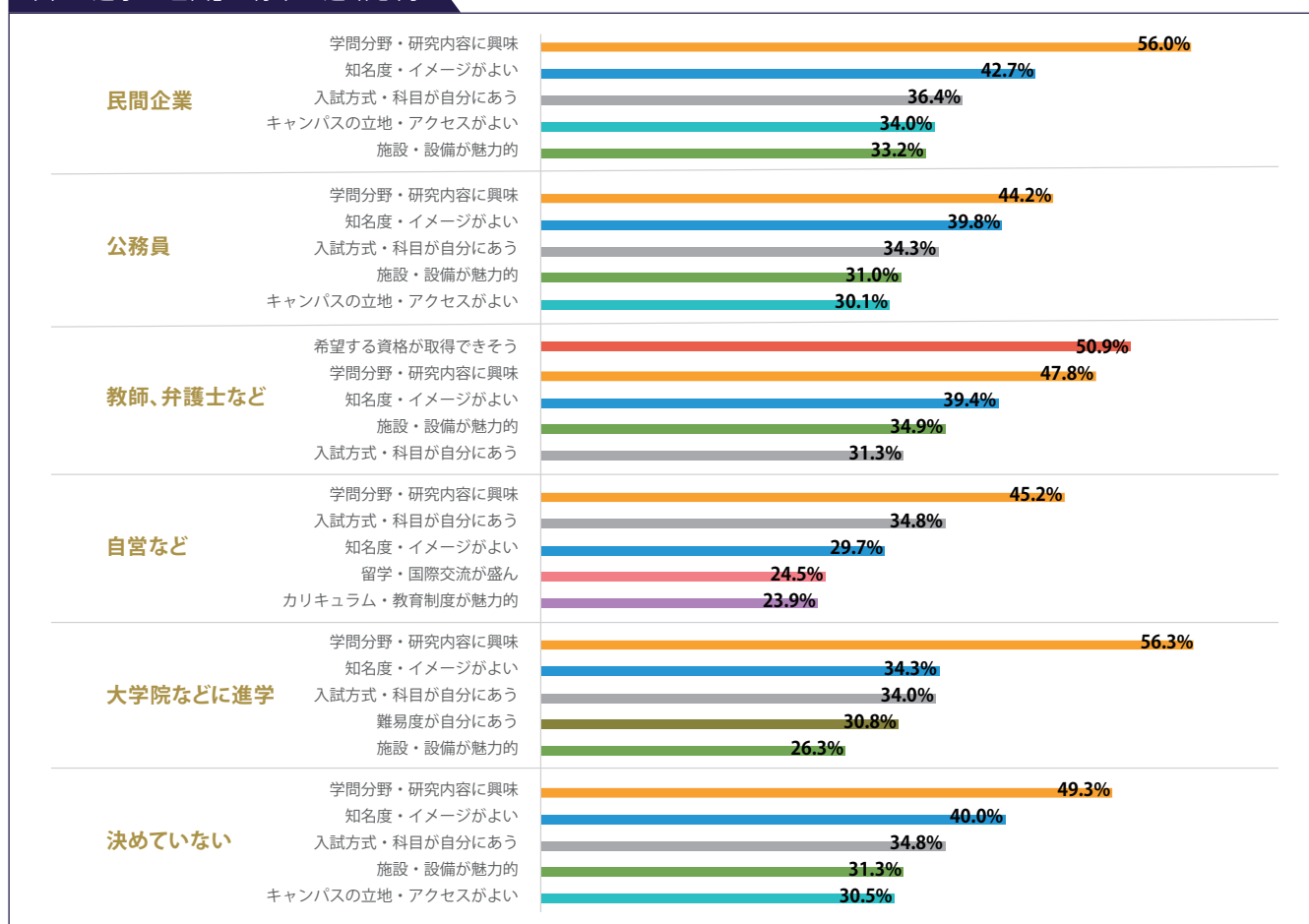
2. 将来の進路志向による差異

2024年度のデータを用いて、「進学理由」「身につけたい力」2項目での各選択肢の選択率の上位5項目について、将来の進路志向による差異を見てみる。

① 「進学理由」× 将来の進路志向

図4に示すように、進路志向別で、学問分野・研究内容に興味、知名度・イメージがよい、入試方式・科目が自分にあうの各項目がいずれも上位5項に入っている。すなわち、進路志向が異なっても、その3点に共通の重要な進学理由となっている。その3項目での選択率について、学問分野・研究内容に興味では、「大学院などに進学」「民間企業」の選択率が5割超、他の進路志向でも4割超である。知名度・イメージがよいでは、「自営業など」「大学院などに進学」の選択率が比較的低く、3割前後で、他の進路志向の選択率は約4割である。入試方式・科目が自分にあうでは、大きな差がなく、3割強である。また、施設・設備が魅力的が「自営業など」以外の進路志向、キャンパスの立地・アクセスがよいが「民間企業」「公務員」「公務員」の進学理由の上位5項目になっている。他方、希望する資格が取得できそうが「教師、弁護士など」で最も高い選択率となっている。留学・国際交流が盛ん、カリキュラム・教育制度が魅力的が「自営業など」、難易度が自分にあうが「大学院などに進学」の進学理由の上位5項目に入っている。

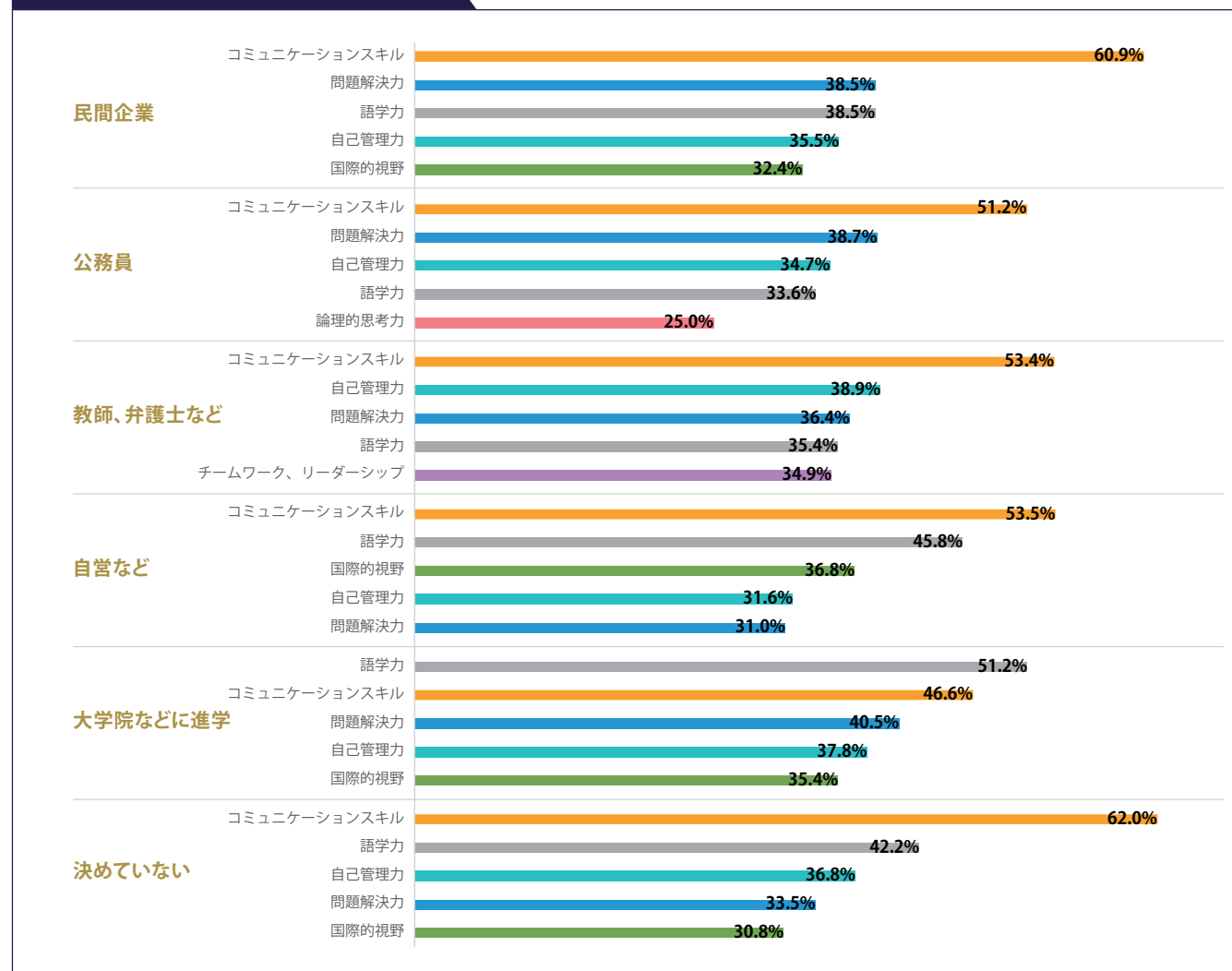
図4 「進学理由」× 将来の進路志向



②「身につけたい力」×将来の進路志向

図5は設問「自分の将来のために、4年間でどのような力を身につけたいですか。（優先順位の高いものから3つまで選択）」の各進路志向の選択項目の中で上位5項目を示している。図に示すように、コミュニケーションスキルは、「大学院などに進学」以外の各進路志向の選択率が最も高い項目となっている。また、問題解決力・語学力・自己管理能力は各進路志向の上位5項目に入っている。他方、論理的思考力は「公務員」で、チームワーク、リーダーシップは「教師、弁護士など」での上位5項目に入っている。語学力は「大学院などに進学」での上位5項目の中で最も割合が高い。

図5 「身につけたい力」×将来の進路志向



まとめ

新入生アンケート回答結果の3年度間の比較について、①大学の志望理由：「学問分野・研究内容に興味」での割合の最も高く、続いて「知名度・イメージがよい」「入試方法・科目が自分にあう」の順である。「知名度・イメージがよい」「施設・設備が魅力的」「キャンパス立地」「難易度が自分にあう」などの項目が微増しているのに対して、「学問分野・研究内容に興味」「カリキュラム・教育制度が魅力的」などが微減の傾向にある。②身につけたい力：過年度と同じく、「コミュニケーションスキル」「語学力」「問題解決力」「自己管理能力」「国際的な視野」は、3年度間継続して上位5項目となっている。③将来の進路：今年度の結果は過年度と同じく、「民間企業に就職する」の割合が最も高く、昨年より微増している。続く「決めていない」は昨年より微減しているが、依然として3割を超えている。「公務員になる」「教師、弁護士などの専門職につく」「大学院などに進学する（海外含む）」はそれぞれ1割未満で、3年度間で「教師、弁護士などの専門職につく」が微減、「大学院などに進学する（海外含む）」が微増の傾向にある。「自営など上記以外の形で就職する」は過年度と同じく5%未満にとどまっている。

進路志向別での特徴が見られた。①大学の志望理由：学問分野・研究内容に興味は、「大学院などに進学」「民間企業」の選択率がより高い。知名度・イメージがよいは、「自営業など」「大学院などに進学」の選択率が比較的低い。希望する資格が取得できそうは、「教師、弁護士など」での選択率がより高い。②身につけたい力：ほとんどの進路志向では選択率の第1位の項目がコミュニケーションスキルであるが、「大学院などに進学」では語学力である。また、「公務員」で論理的思考力、「教師、弁護士など」でチームワーク、リーダーシップがより重要視されている傾向が見られる。

いかに教育・研究の内容の魅力をより広く受験者に知らせ、また新入生の異なる「将来の進路」の志向による多様なニーズを把握し、これを今後の大学の教育、学生の進路指導につなげるかが課題である。

※詳細な分析、およびアンケートの学部別、第1部・第2部別の単純集計結果のデータはガルーン/ファイル管理/IR室関連で学内へ公表しています。